

山口県大島防災センターだより

山口県大島防災センター 〒742-2301 山口県大島郡周防大島町大字久賀5066-5 TEL.0820-79-1133

第25号
平成26年1月



あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお祈りいたします。



家族で防災会議

災害はある日突然起こります。でも、日ごろから災害に対する備えや災害時の対処方法を身につけることで被害を軽減することができます。いざというときに備え、落ち着いた行動ができるよう家族防災会議を開いて、話し合ってみましょう。

①家族一人ひとりの役割分担

日頃の防災の役割と、災害が起きた時の役割を決める。

(1) 火の始末 (2) 出口の確保 (3) 非常持出品の確認 (4) 隣近所への連絡

②家屋の危険箇所チェック

家の内外の安全対策

(1) 家の中に空間を作る (2) 家具の転倒防止 (3) 安全な避難経路
(4) 窓ガラス (5) 屋根、ブロック塀、プロパンガス等



③災害時の連絡方法や避難場所

災害時、家族が離ればなれになったときの連絡方法や避難場所を確認しておく。

(1) NTT災害用伝言ダイヤル (2) 学校や職場との連絡方法
(3) 一時避難場所、二時避難場所(家族の集合場所)



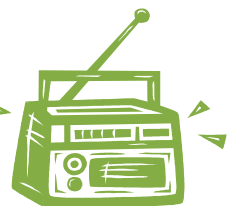
④津波からの避難について

気象庁から津波予報が出るのは、現在の所、早くても地震後5分程度の時間がかかります。地震の大きいゆれを感じたら、海岸に近いところに居る人は、とりあえず安全な高台に避難することが大切です。その後、津波の情報を確認して、さらに避難を続けるか、元に戻れるかを判断してください。

津波予報を聞いてから避難するのではなく、「地震があつたら、まず高台に避難」(地震だ津波だ すぐ避難)の心構えが必要です。

⑤災害時の情報入手方法

ラジオや防災無線など、正確な災害情報を入手できる手段を用意しておく。



⑥非常持出品

日頃からの備えが必要。避難する時、持ち出す最小限の必需品を整理して、分かりやすい場所に置いてあるかどうか。賞味期限は大丈夫か確認しておく。

チェックリスト

非常持出品


避難する時に最初に持ち出す、必要最低限の備えです。
男性は15kg、女性は10kg程度の重さを目安に準備しましょう。

非常食料・食器 避難時に持ち出せる最低限の量で、調理しなくても食べられる物を用意しましょう。	乾パン 缶詰 ペットボトル飲料水 皿、コップ (紙、ステンレスなど) ラップ アルミホイル	
避難用具 ラジオは小型で軽くFMとAMの両方聞けるもの、照明器具は1人に1つ用意。	携帯ラジオ 懐中電灯 予備電池 ロウソク ライター、マッチ	
生活用品など   	万能ナイフ 軍手、手袋 簡易トイレ ロープ、ガムテープ ティッシュ ウエットティッシュ レジャーシート 裁縫道具 洗面用具 下着類 防寒着 雨がっぱ タオル、ハンカチ ポリ袋 筆記用具	
救急用具 	消毒液 包帯、三角巾 脱脂綿 ばんそうこう マスク 常備薬	

貴重品 通帳・カード・保険証などについては、番号を控えたメモをあらかじめ用意しておきましょう。 	現金 10円玉 預金通帳 カード類 健康保険証 免許証 証書類 印鑑 家・車の予備鍵 携帯電話 予備メガネなど	
その他 個々の事情によって必要性が異なる物。   	女性用品 生理用品 ホイッスル ブラシ 化粧品、鏡 おりものシート 高齢者用品 高齢者手帳 おむつ 着替え 持病薬 予備メガネ 介護用品 ベビー用品 粉ミルク 哺乳瓶 離乳食 スプーン 洗浄綿 バスタオル ガーゼ 紙おむつ 母子手帳 着替え ベビーカー	

非常備蓄品

救援物資が届くまでの数日間を自足できるように準備しておく物です。
家族1人あたり1週間程度を用意しておきましょう。

飲料 大人1人あたり1日3ℓ必要と言われています。	飲料水 非常用給水袋やポリタンクなど	
食料 各自の嗜好とも照らし、1週間程度しのげる食料品を備える。 	アルファ米 缶類 インスタント製品 レトルト食品 即席スープ 塩 調味料 飴・チョコレート 切り餅 割り箸、スプーン、フォーク	

衣料 季節・個々の状況に応じて数量を判断。	上着 下着 靴下	
生活用品 各家庭に必要な用具を検討し、持ち出しやすい容器にまとめて、常備しておくとい。	卓上コンロ ガスボンベ 固形燃料 新聞紙 携帯充電器(手回し式など) ドライシャンプー 石鹸 使い捨てカイロ ビニール袋 鍋、やかん	

※その他、個々の事情に合わせた調整が必要です。